

2017年9月20日 第528号 (隔月発行)

# アジアの友

The Asia-no Tomo

# 8-9

AUGUST-SEPTEMBER

2017

AUW 代表来日 ABK 来館歓迎交流ワークショップ開催

<専門学校の取組み> 学校法人中央情報学園 早稲田文理専門学校



# 第5回卓球大会を開催！

2017年7月28日（金）第5回卓球大会を開催しました。今年は男女計10名が参加、熱戦を繰り広げました。その結果、昨年惜しくも準優勝だった YIP HORFAI さん（香港 写真右下中央）が見事雪辱を果たし優勝、2位には HO KAIYIN さん（中国）が入りました。



# 第5回カラオケ大会を開催

2017年7月28日（金）第5回カラオケ大会を開催しました。観客投票の結果、浴衣姿で熱唱した NGUYEN HOANG THANH QUY さん（ベトナム 写真左上）が優勝しました。今年は11組の学生がエントリー、様々な地域・ジャンルの歌が披露され、大いに盛り上がりました。

# 第16回 ABK秋祭り 開催決定！

2017年10月21日（土） 12:00～16:00

場所：アジア文化会館（文京区本駒込2-12-13 / 都営三田線「千石」駅徒歩5分）

- ▶ アジア各国料理と歌や踊りのパフォーマンス
- ▶ 入場無料！ 皆様のお越しをお待ちしています！！

# アジアの友

2017年8・9月号 第528号

## 目次

	<b>巻頭</b>
2	AUW 代表来日 ABK 来館歓迎交流ワークショップ開催
	<b>専門学校の取組み</b>
4	学校法人中央情報学園 早稲田文理専門学校
	<b>留学生インタビュー</b>
	バン格拉デシュからの短期留学生に聞く
12	「バン格拉デシュの日本語学習環境と日本の印象」 スモン ミア ムハammadさん イスラム イムティ ナジルルさん
	<b>先輩に聞く!</b>
18	「日本留学で得た豊かな人生 ～縁ある人々を訪ねて」 陳 柏池さん ～マレーシア
	<b>連載コラム</b>
26	泰日工業大学 奮闘記 (第25回) 「泰日工業大学 (TNI) 10周年を迎える」 水谷光一
31	<b>知友会通信</b>
32	<b>MEMBERS</b>

<表紙> 東京後楽ロータリークラブよりいた  
だいた浴衣を着た ABK 留学生たち

## AUW 代表来日

### ABK 来館歓迎交流ワークショップ開催

2017年7月20日(木) 19:00～21:00

アジア文化会館 101 研修室



南アジアおよび東南アジアで不平等な待遇を受けている女性たちに高等教育を提供するためにユネスコ、世界銀行を中心に各国の支援を受けて2008年に設立された国際的女子大学のAUW (ASIAN UNIVERSITY FOR WOMEN、場所: バングラデシュ・チッタゴン)。この夏、認定NPO法人女性の活力を社会の活力に (JKSK) がそのAUWから5名の代表者を招聘、1か月間の日本研修がおこなわれました。研修プログラムは日本企業でのインターンシップを中心に日本文化体験、大学訪問など数々のスケジュールが組まれましたが、その中に(公財)東芝国際交流財団の申し出により「ABKフロア生との交流会」が企画、実施されました。交流会にはABKフロア生\*ほか、在館の一般学生も参加し、それぞれの日本体験や自国の問題等について英語による話し合いの場がもたれました。(※ABKフロア生…アジア文化会館の特別枠入館寮生で自立的な活動を行っている)

ABK 在館生との交流会に参加した4名のAUW 学生



Susan Sitoula (ネパール)

Azra Jawaid (インド)

Lisha Subba (ブータン)

Sumaiya Sharminn (バングラデシュ)

交流会はフロア生会長の中国の張笑さんの歓迎の挨拶で始まり、次に全体の進行について説明があり、AUWの4名の方が自己紹介、その後4グループに分かれてワークショップ型式のディスカッションが行われました。テーマは「日本のイメージについて、来日前と来日後の印象」「AUWでの勉強について」「女性問題について」「将来のビジョンについて」など。会は終始和やかに進行し、日本とバングラデシュというまったく異なる環境で学ぶ各国の学生たちだが、お互い素直かつ積極的な意見交換を行い交流を深め、最後は4名のAUWの学生から各テーブルの発表が行われました。その後、ABK 小木曾理事長よりAUW 学生に記念品が授与され、最後はもう1人のフロア生会長であるモンゴルのガンバさんによる閉会のスピーチでこの大変貴重な一時の幕を閉じました。なお出席した学生の国籍は次の通りです。中国、ミャンマー、モンゴル、バングラデシュ、カンボジア、インド、ブータン、タイ、フィリピン、日本。また、ワークショップの前18時～19時には、ABKの歴史、活動についての説明とABKの宿舎等の見学が行われました。



フロア学生会長の張さん（中国）による歓迎の挨拶



小木曾 ABK 理事長による記念品の授与



フロア学生会長のガンバさん（モンゴル）による閉会の挨拶



参加者全員で記念撮影

## 専門学校の取組み

# 学校法人中央情報学園 **早稲田文理専門学校**

Waseda-Bunri College of Arts & Sciences

本誌既報の通り、日本語学校を経て専門学校へ進学する留学生が増加している。学生の国籍もこれまで圧倒的多数を占めていた中国からベトナムを中心とした非漢字圏の学生に移り、各校は新たな受け入れ態勢を模索する中にある。

こうした中、2011年4月に開校した早稲田文理専門学校（東京・豊島）はITや経営について学ぶ全5学科のうち、4学科に300名を超える留学生が在籍、留学生に注力した教育が行われている。一方で職業教育機関である専門学校として重要となる就職率は9割を超えており、2016年にはこうした実績が評価され、一般財団法人日本語教育振興協会 日本語学校教育研究大会が主催する「日本留学 AWARDS\*」を受賞（専門学校・東日本部門入賞）した。留学生中心の専門学校運営を円滑に行うためのポイントはどこにあるのか。同校の佐藤直子副校長にお話をうかがった。

（※「日本留学 AWARDS」…日本語学校教職員が選ぶ留学生に勤めたい進学先を選出、表彰する）

## 留学生をターゲットに募集を開始

—— 留学生中心の学校を設立した経緯を教えてくださいませんか。

本校開設にあたっては少子高齢化の中での新設校ということで、日本人学生を一定数集めることが難しいということがありました。また、母体で姉妹校でもある中央情報専門学校（埼玉・志木）でも近年留学生が増加しており、留学生教育に対するノウハウを持った教員が多かったということで、まずは留学生に対象を絞る形でスタートしようということになりました。

ただし、留学生だけの学校にするということではなかったため、産学連携の基盤を持つ教員が集まり、日本人募集に注力できる体制



一号館校舎

が整った開校3年目の2014年には、日本人学生を対象としたゲームクリエイター学科を設置し、日本人学生の募集も開始しました。現在はここに約30名の日本人学生が在籍しています。

—— 留学生と日本人の学ぶクラスを分けた学科構成になっているということですね。

そうですね。ただ、希望する学生に対しては個別で対応を行っていて、現在日中越英通訳・ガイド学科には日本人が1名在籍していますし、過去にゲームクリエイター学科に留学生が在籍していたこともあります。また、平成30年度に新設する「営業マネジメント学科」では、日本人、留学生を問わない募集を行う予定です。

—— 現在留学生の国籍はどのようになっているのでしょうか。

全体の60%がベトナムで、20%が中国、次がネパールの10%ほどになります。その他に、ミャンマー、ウズベキスタン、インド、タイ、台湾、バングラデシュ、ラオス、ロシア、フィリピン、マレーシアの学生が数名ずつ在籍しています。

—— 開校時からベトナム人学生は多かったのでしょうか。

ベトナムが増加し出したのは2015年からです。特別意識して増やしたわけではないのですが、昨年には中国を上回り、今年はさらに増加しました。

—— 入学経路と入学選考基準について教えてください。

入学経路については100%日本語学校経由で、現地からの直接入学の学生というのは今のところありません。

選考については二段階で行っています。まず一次試験は9月より始まり、日本語試験と英語を含めた一般常識の筆記試験です。日本語は日本語能力試験（JLPT）のN3からN1レベルを網羅した出題となりますが、N3レベルの得点が半分以上とれていることが一次通過のボーダーラインとなります。

佐藤直子  
副校長



一次の1週間後に行われる二次試験は面接で、日本語の会話力や専門分野への適性等を見ます。最終的な合否は一次二次の結果を総合的に判断して決めており、合格率は昨年のデータでは受験者全体の約30%でした。近年の入試倍率は3倍強になっており、ご紹介いただいている日本語学校の先生方には申し訳ないのですが、お断りしている学生のほうが多いというのが現状です。

## 留学生に合わせた授業を模索

—— 留学生を対象とした授業を行うにあたってはどのような工夫をされているのでしょうか。

例えばIT系授業のカリキュラムを作成する際は、講義100%ではなく、適宜実習を入れて理解しやすくすること、使用テキストは日本語レベルや活字の見やすさに配慮した専用のものを用意し、シラバス作成時には随

所に復習を取り入れるようにしています。また、ほとんどの教員が書き込み式のオリジナルのプリントを授業ごとに作成し、テキストと兼用をして利用しています。授業では板書に適宜ルビをふることはもちろん、授業がインプットだけにならないよう、発表や小テスト等、アウトプットの場を増やすなどして、授業内容を定着させるための工夫を行っています。

—— 留学生、特に非漢字圏の学生に対して行う授業と日本人を対象とした授業とで大きく違うのはどのようなところでしょうか。

授業のスピードという面では圧倒的に日本人を教える場合とは違います。問題をやらせれば同じスピードで解けたりするのですが、一つの単位について解説をする、例えば“前受金”について学ぼうとなった時、日本人なら自分で本を読めばある程度理解出来るのですが、特に非漢字圏の学生の場合は単語を見てそこから内容をイメージすることができません。そこは漢字圏の学生とも違います。やはり非漢字圏の学生にテキストを読んで説明していくというのは、とても時間がかかる作業となります。ただし、パソコンを使うような授業、ワードやExcelを使った授業の場合、今の子どもたちは入力が多いので、それほど日本人とは変わらないように思います。ベトナム人などは国でローマ字入力の練習をしてきているようで、相当速いですね。

—— 授業の内容や質、目標という部分で留学生に合わせたものを考えて行く必要があるわけですね。

例えば、ビジネス系学科の学生が目指す資格という面で見えた場合、日本人中心の専



修学旅行の様子

門学校では「日商簿記2級」を目指すのが一般的ですが、当校の留学生は2級はほとんどとれていませんし、とれている学生は全て中国の学生です。非漢字圏の学生の場合、3年間勉強しても3級までというのが現実です。また、IT系の学科では、通常目標とする国家資格とは違う、合否ではなくて点数で評価をされるような資格を目指してもらう、アプリの開発やロボット製作およびコンテストへ参加してもらうなど、資格取得だけではなく、モノづくり的なところにシフトしている傾向はあります。そこは学生たちが描く将来像に合わせて、試行錯誤しながら目標を設定していっている状態です。

—— 一般に日本人学生が目指す資格がとれないことによって、就職に不利になるようなことはないのでしょうか。

国家資格などで、その資格がないと就けない職業というのは存在しますが、IT系の企業では資格の有無云々で就職が不利になるということはほとんどありません。

—— 日本語の授業についてはいかがでしょうか。

週2回、日本語の授業を設けていますが、

これは会話力というよりも日本語能力試験(JLPT)を目指すためのものです。ですからそれ以外、社会で必要となる日本語という意味では、ビジネスマナーやキャリアマネジメントといった授業の中で学んでもらっています。その他、面接練習や、インターンシップへの参加、メイクセミナーといったことは、常に個別対応で行っています。

—— 留学生が日本人と学べないことに関するデメリットのようなものは感じますか。

漠然としていますが、同世代の日本人の感覚といったものを掴めないというデメリットはあると思います。当校の留学生は「日本が大好き」と言う学生がほとんどなので、日本人と机を並べて、同世代の日本人と一緒に学びたいという気持ちは大きいと思います。ですから、現在も学校行事は日本人と留学生一緒に行っていますし、これからは大学のように日本人と留学生が触れ合える機会をより多く作っていきたいと考えています。

## 学生の経済的問題への対応は

—— では授業以外の部分で、日本人中心の学校と違う面はどのようなところででしょうか。

最も違うのは生活面でのサポートです。例えば学費について、日本人の場合は期日までに問題なく完納しますが、留学生の場合は一括で払えないというケースもあります。その場合は二回に分けてもらったり、分納する計画を一緒に立てたりという指導を行いますから、そこにかかる時間は多くなります。成績を上げて資格を取ってもら

うことは重要ですが、学費を払ってもらおうということも学校としては大切ですから、その辺りの指導については終わらない戦いのようなところもありますね。

もう一つは就職に関してです。今は就職を希望する学生を全て就職させるというのが学校としての一番の目標になっていますから、まず入学時に、卒業後どんな仕事に就きたいのかということ丁寧聞くようにしています。その志が低いと、2年ないし4年間この学校で学んでいくことは難しい。やはり目標意識が高く、卒業までそのモチベーションを保っててもらわないと困るので、学生が意欲を持ち続けられるように教員がサポートをしていく。留学生の場合は言葉の問題もあり、途中で自信をなくしてしまうことがありますから、その落ち込んだ気持ちをもう一度上向きにできるよう、教員が学生と常に近い存在で居続けなければなりません。そこは難しいところではあるのですが、やりがいを感じる場所でもあります。

—— 学生の母語によるサポートも行っているのでしょうか。

母語での対応については、ベトナム人職員が1名と、中国人教員が1名いますので、私たちのところまで上がってこないような相談事については彼らに対応してくれているようです。その他の言語については現状母語で対応できるスタッフはいませんが、当校の専任には生活サポートが好きな教員が多く、その点で学生からの不満はないようです。

—— 経済的事情からアルバイトをさせている学生も少なくないと思いますが、そういった状況も把握されているのでしょうか。

アルバイト調査というのは毎月行っていて、アルバイトを誰がどこでどれだけやっているのかということは把握しています。また、アルバイトについては、日本語を使わない工場のルーティーンワークのようなものではなく、なるべく日本語力がつくようなところで働いてもらいたいと思っており、学生からアルバイトに関する相談があった際は、出来るだけ適切なところを紹介するなどしています。

—— 学費や生活費は自分で工面している学生も多いのでしょうか。

最初の1年間は親の援助で支払う学生が多いのですが、2年目からは少し自分でも負担するという学生が多いですね。4年制学科の場合、3年生以上になると、ほぼ全て自分で払っているという学生も多くなります。もっとも、現実的に仕送りが受けられないというケースもありますが、2年目以降は親の仕送りを遠慮してしまっているというケースも多く見受けられます。

—— 入学時に学費の支弁能力についての確認はされていますか。

重々確認しています(笑)。書類確認はもちろん、ベトナムの場合は親にも電話をして確認をとっているのですが、なかなか全てが大丈夫とはいきません。ただし全体で見ると、完納しないで前期を終える学生というのはほとんどおらず、最終的にはみなさん完納できています。

—— 学費の減免制度などはありますか。

留学生の場合、20万円以上の学費免除を行っていますから、年間の学費は70万円強に抑えられます。その他に学園奨学金制度が

あり、出席率や成績等により、学費の50%または25%の奨学金を給付しています。

## 高い就職率と充実した就職支援

—— では就職率について教えてください。

2016年度の場合、就職希望者は全学生の87%で、実際の就職率は8月28日現在で94%です。残り6%は特定活動で卒業後も日本に残り就活を続けています。就職希望者以外の学生については大学や大学院に進学する学生、帰国する学生などです。

—— 高い就職率ですが、就職支援についてはどのように行っていますか。

就職支援専門の職員は置いていませんが、就職担当の教員が4人おり、それぞれ文系、理系、ビザ担当と役割を分担して支援を行っています。

企業紹介という面では、学校に企業の方を招いての就職説明会を年に何度か行っており、これは一社が単独で行う場合もあれば、十数社が合同で行う場合もあります。企業開拓については、様々な場面で出会う企業の方にお声掛けをさせていただき、新しくお付き合いいただける企業を増やしています。実際に当校の留学生を採用していただいた企業さんが、「おたくの学生は会話力も高くお客様からの評判も高いので、また次年度にも採用をしたい」と言ってきてくださるなど、評価は年々高まってきていると感じます。

こうした成果からか、ここ何年間かは8割ほどの学生が学校を通じて就職先を決めています。

—— 2年制学科の場合、入学して間もな

く就活というイメージがありますが、就活の開始時期についてはいかがでしょうか。

やはり日本人学生に比べると就活開始時期は遅いですね。1年生の夏にはホテルなど、企業のインターンシップに参加するよう積極的に声をかけていますが、なかなか普通の学生は「行きます」と言ってくれません。まだ日本語に自信がない、アルバイトの時間が削られるという理由があるようです。ですから、2年制学科の学生の場合、どうしてもスタートが遅くなり、内定も2年生の秋くらいからやっと決まってしまうといった感じでしょうか。逆に4年制学科の3年生の場合、2年制を卒業した同期の友人たちが既に社会で活躍していますから、モチベーションは非常に高く、日本人と同じようなサイクルで就活を始めています。

### これからの課題と展望は

——— 多くの留学生を社会に送り出して来られたわけですが、そうした中で難しいと感じていることなどはあるでしょうか。

学生のレベルが年々上がってきている中、私たちも日本の労働力不足を当校の学生が少しでも補えればと思いがんばっているのですが、やはり企業が望む人材と当校の学生のギャップというものは確実にあるわけです。例えば有名なホテルやデパートなどに入社している学生もいますが、そういった所の場合、“英語”ということ必ず言われます。TOEICは600点くらいと言われると、JLPTのN1は持っているけど英語はちょっと…という学生が多いのが現状です。また、日本語



企業による就職説明会の様子

のコミュニケーション能力についても、日本人並を求められると、なかなかそこまでの能力は2年間では育成できません。そういったギャップは確実にあります。

——— ではやはり今後の課題も就職に関する部分が大きくなるでしょうか。

そうですね。彼らが日本に来た時、もしくは当校に入学した時にこんな仕事をしてみたいと思った職種に、実際就いてもらいたいと思っています。例えば日中越英通訳・ガイド学科なら、みなさん将来はガイドになりたいと入学してくるわけです。そして結果としてみなさん満足して就職していくわけですが、全ての学生が最初に思い描いた通りの仕事に就けているわけではありません。ですから、2年間しか時間はないわけですが、その時間をいかに有効に使い、学生の夢を実現できるようにしてあげられるか。学生の夢を叶えてあげたいというのが目指すところです。

——— 現状そのために出来るのはどのようなことでしょうか。

さらに企業の開拓をしていくということですね。加えて、学生がインターンシップに参加するよう、もっと積極的に働き掛けを行う

ことです。実際将来働けるかもしれない現場での就業体験をし、自分の足りないところを自覚してもらい、そこを改善できるよう、モチベーションを持って学校で学んで欲しいと思っています。

授業カリキュラムも毎年考えて改善をして

いています。授業時間数というのはある程度固定で大きくは変えられませんから、効果的でより良いものに出来るだけ入れ替えていくなど、工夫していきたいと思っています。

—— 本日は貴重なお話をありがとうございました。

## 留学生活は怎么样了？（学生インタビュー）

### ▶ ドアン ゴック ニャットさん（アプリ・Web制作学科2年生）

### ▶ ヴェティ タントゥさん（日中越英通訳・ガイド学科2年生）

—— お二人ともベトナムで大学を卒業後、来日されたそうですが、日本に留学した理由と早稲田文理専門学校に入学した理由を教えてください。

トゥ：私はベトナムの大学で英語を学んだのですが、ベトナムでは日本企業の人気があって日本語ができれば仕事のチャンスがさらに増えると思っていました。大学を卒業後はシンガポールで就職し、仕事をしていたのですが、やはり日本人の働き方を勉強したい、日本でチャンスを掴みたいと思い、30歳になる前に会社を辞めて日本に来ることにしたんです。来日当初はシンガポールの会社を辞めたことを後悔したこともあるのですが、今では来て良かったと思っています。この学校を選んだのは、友達が以前ここで勉強していて、良い学校だと紹介してくれたからです。

ニャット：僕は日本語学校生の時に住んでいた寮がこの学校の近くだったので、学校のことは知っていました。それで先輩にこの学校のことについて聞いてみたら、ITや経営の学科が有名ということで、受験してみよう

と思ったんです。ベトナムの大学ではエネルギーのことを勉強していたのですが、ITのことにも興味を持っていて、機会があれば学んでみたいと思っていました。

—— 留学のための費用はどうしましたか。

トゥ：私はシンガポールで働いた2年間で貯金をしました。

ニャット：僕は来日当初は全額家族に負担してもらっていましたが、今は家族の仕送りと自分のアルバイトで賄っています。

—— 日本生活で大変なことはなんですか。

ニャット：東京の交通は便利ですが、その代わり電車の利用では迷うことが多かったです。それにベトナムの移動はバイクやバスを利用するのでほとんど歩かずに目的地に着けるのですが、日本では歩かなければいけないことが多くて、そこは大変に感じます。

トゥ：来日した当初は食べ物に慣れなくて少し大変でした。でも今は生もの、お寿司なども全て美味しく食べられるようになりました。日本生活の良いところはいつも日本文化が身近にあることです。私は浴衣とか花火と

か、日本の文化が大好きなので、そういったことが身近に体験できるのはいいところですよ。今の問題は日本の物価の高さくらいです。

—— クラスに日本人の学生がいないことはどう思いますか。

**ニャット**：日本人学生と話す機会は少なくなりますから、その点は悪い点ですね。ただ今のクラスはベトナム人が少なく、ネパール人と中国人が多く、彼らと話す時は日本語を使います。彼らの国の文化や考え方がわかるのは楽しいですし、良いところだと思います。

**トゥ**：日本人のクラスメートがいないことは残念ですが、代わりに先生方が親切でいつも丁寧にアドバイスをくれます。日本語の授業を100%理解するのは難しいので、わからなかったところは授業後先生にすぐ聞くようにしていますが、先生方はすぐに対応してくれるので、学校生活で不満を感じることはありません。

—— では日本社会に対する期待や希望はありますか。

**ニャット**：今は友達と一緒に住んでいて一月の生活費はだいたい8万円くらいです。これはアルバイトでギリギリ賄える金額です。留学生の生活は経済的に大変なことがありますから、28時間という(就労時間)制限を変えて、日本人学生と同じようにアルバイトができる



トゥさん(左)とニャットさん

ようにしてほしいと思います。

**トゥ**：今、観光や仕事で外国人がどんどん日本に来ていますね。3年後にはオリンピックもありますから、その時までには私たちが働く場はもっと広がると思っています、それはとても期待しているところです。

—— 卒業後の予定を教えてください。

**トゥ**：貿易や国際営業の仕事をしたいと思っています。今、関連の企業から内定をいただいています。そして日本で経験を積んで日本人の働き方を学びたいと思っています。将来についてはまだわかりませんが、ベトナムに帰国して自分の会社を作れたらいいですね。

**ニャット**：卒業後は日本で就職をするつもりで、今、就活をしています。将来の目標は、ITの会社を日本で起業することです。

—— お二人の目標が達成できますよう、応援しています。ありがとうございました。

学校法人中央情報学園 早稲田文理専門学校

東京都豊島区高田 2-6-7 ☎ 03-5960-2611 E-mail info@wbc.ac.jp URL <http://www.wbc.ac.jp>

- ・ゲームクリエイター学科(2年制)(※日本人学生対象)
- ・クリエイティブビジネス経営学科(4年制) ・アプリ・Web制作学科(2年制)
- ・IoT・組込みソフトウェア学科(3年制) ・日中越英通訳・ガイド学科(2年制)

## ABK カレッジ バングラデシュからの短期留学生に聞く バングラデシュの日本語学習環境と日本の印象

スモン ミア ムHAMMAD (スモン) さん MR. SUMON MIA MUHAMMAD

イスラム イムティ ナジール (ナジール) さん MR. ISLAM MD NAZIRUL



バングラデシュの民族衣装で

ABK 学館日本語学校 (ABK カレッジ) の協定校であるダッカ大学の現代言語研究所 (Institute of Modern Languages=IML) 日本語科の推薦を得て、この夏2人の日本語を学ぶ学生が ABK カレッジの奨学金で来日、1か月間同校に短期留学をした。勉学に観光に、ひと月の東京滞在を十二分に満喫したという彼らが日本語を学んで得たものとは。バングラデシュの日本語学習者事情なども合わせてお話を聞いた。

### 日本語から日本への興味へ

**編集部：** お二人が日本語を学び始めたのはいつ頃からですか？

**スモン：** 私は2013年からです。当時は、ダッカ大学経済学部で4年間が終わった頃で、修士に進学する前でした。ダッカ大学のIMLは語学学校を運営していて、各国語を学べるのですが、私はその中から日本語を選んで勉強しました。

**ナジール：** 私も始めたのはスモンさんと同じ2013年からです。当時はダッカ大学仏教学部で2年生でした。

**編集部：** どうして日本語を学ぼうと思ったのですか。

**スモン：** 私の伯父の友達が日本で働いていて、彼から日本語を学べば仕事のチャンスが広がるかもしれないと言われたのがきっかけです。それでIMLの試験を受けてみたんです。実はそれまであまり日本に関心を

持っていなかったのですが、日本語を学び始めてみると面白くて、もっと日本のことを知りたいと思いました。それで、同時に経済や歴史、文化のことも勉強したんです。私は修士課程を二度とっているのですが、二度目は日本研究をしました。

**ナジル：** 私は大学の寮に住んでいたのですが、私の部屋には大きな鏡がありました。それで、日本語を勉強している先輩が時々私の

部屋に来て、その鏡の前で日本語を話す練習をしていたんですね。私はそれを見て、だんだん日本語に興味を持つようになりました。ある日、先輩にどこで勉強しているのか聞いたら、「IMLで勉強しているから一緒にやりましょう、日本語が出来れば将来日系企業で働けますよ」と誘われたんですね。

**編集部：** 授業は何人くらいでスタートしたのでしょうか。

**ナジル：** IMLでは『みんなの日本語』を使って1年間に120時間くらい勉強します。1年目が第一課から25課までで、2年目が26課から50課までなのですが、2年目、漢字が始まると学生数がぐんと減り、そこからだんだん減って行きます。私たちのクラスは開始当初は150人くらいの生徒がいたのですが、2年目に30人になりました。そして3年目に4人になって、今、最後の4年目は私たち2人だけです(笑)。



ダッカ大学 IML 玄関の前で スモンさん(左)とナジルさん

**スモン：** 日本語の勉強を始めるのは簡単ですが、続けるのは大変です。ひらがな、カタカナまではOKなのですが、漢字になると諦めてしまう人が多いですね。ですから授業がない時も積極的に学ぼうという気持ちがないと、どんどん忘れてしまいます。

**ナジル：** 今は日本に来ていて、みなさんと日本語で話していますが、バングラデシュでは普段日本語で話すチャンスはあまりありません。ですから、私たちの日本語レベルはなかなか上がらず、4年間学んでも、日本語能力試験(JLPT)のN3に受かるかどうかというレベルです。

**編集部：** 日本語を学んでいて面白く感じることはありますか。

**ナジル：** いろいろな漢字を書くことは面白いですね。ただし、記憶できるかという別で、少し経つと忘れていきます(笑)。

**スモン：** 日本語を知らない人の中で日本語を使うのが楽しいです。例えば Facebook



スモンさん

に日本語でアップすると、友達から「今、何を言ったの?」という質問がどんどん来ます。それは面白いですね。また、私は今回日本に来るのは昨年が続いて2回目ですが、こうしたチャンスがもらえるのも日本語を続けてきたからです。それが一番面白いことですし、将来もっと良いチャンスがあるのではないかと楽しみです。

**ナジル:** 今回の ABK の奨学金も、IML の 4 年生は私たち 2 人だけなので、競争も無くもらうことができました (笑)。

## バンラデシュで日本語の人気は?

**編集部:** では今、バンラデシュで人気がある外国語は何ですか。

**スモン:** 韓国語と中国語、次に日本語ですね。バンラデシュは貧乏な人が多いので、趣味より仕事に結びつくチャンスがど

のくらい大きいかによって、その言語の人気が決まります。ですからバンラデシュへ投資をしている額が大きい国の順に、その国の言葉を学ぶ人の数も決まっていくという感じです。中国は留学のための奨学金もたくさんあって、他の言語に比べて簡単にもらえますから、そういう意味でも人気が高いです。

**編集部:** 日本語も人気があるとのことですが、ダッカには日本語学校は多いのですか?

**ナジル:** 今だんだん増えています。日本に留学したい人が増えていて、それに合わせて日本語学校も増えてきているという感じですよ。

**スモン:** 日本の留学ビザをとるためには JLPT の N5 を持っていることが条件なので、それをとるためにみんな日本語学校に通っています。

**編集部:** 日本語学校の生徒の男女比はどのような感じでしょう。

**スモン:** バンラデシュで海外へ出ようとする人の多くは男性ですから、日本語学校の学生は 99% が男ですね。ただ今は女性も少しずつ増えています。

**ナジル:** アニメなど日本のポップカルチャーや、活け花など日本の伝統文化に興味を持って日本語を習い始める人もいますが、まだまだ少ないですね。そしてほしいが 1 年で止めてしまうという感じです。

## 今の仕事と日本語の関係

**編集部:** お二人の今のお仕事について教えてください。

**スモン：** 今は地元の企業で日本語通訳の仕事をしています。会社は靴を作っていて、日本に輸出していますから、日本のお客様がダッカに来て品質をチェックします。その際の通訳を私がするのですが、ちょっと苦労しています。日本のお客様といろいろな連絡をとる必要がありますが、本当に相手が言いたいことがわからず、誤解が生まれてしまうことがあります。やはり日本に2-3年住んでみて日本人の考え方を理解していないと、十分な意思疎通はできません。仕事を始めてみて、日本留学の重要性を実感しています。

**ナジル：** 私は大学卒業後、アルバイトで日本語を教えています。学校では日本語の入門レベルを教えています。やはり本当の日本語教師になるのなら日本留学は必要だと思っています。学校は常時60人~80人の学生がいて、生徒はほとんど男性で女性は5%くらいでしょうか。先生は全員バングラデシュ人です。

**編集部：** 今回の短期留学では1か月、通常のクラスに入って勉強したわけですが、どうでしたか？

**ナジル：** 先生の教え方が今まで経験したことがないもので、とてもわかりやすかったのが驚きました。1年日本で勉強したら、とても上手になるだろうと感じました。バングラデシュで4年間勉強するのなら、日本で1年間勉強した方がいいのではと思います。

**スモン：** 本当に授業はすごく面白くてわかりやすかったです。バングラデシュでは1時間の授業が5時間にも感じてましたが、ここでは3時間の授業が1時間に感じました。授業中にいろいろな方法で練習をすることと、



ナジルさん

毎日宿題が出るというのは大変なこともありますが、学んだことが身に付くのを実感できます。定期的な試験があるのも目標になりますね。ですから、日本語を将来本当に仕事で使いたいと思っている人には、長い期間バングラデシュで勉強するのではなく、出来るだけ早く日本へ行って勉強することを勧めます。バングラデシュでの4年分の勉強が日本では1年で出来ると思えば、3年間は節約できます。一番大事なものは時間です。とにかく日本に来ることさえできれば、あとはなんとかかなります。今来ているバングラデシュのみならず、ほとんどがドロップアウトすることなく、アルバイトと勉強を両立させて日本で生活していますから。

## 物価の違いと戦いながら目指す夢

**編集部：** 東京の生活で大変だと思ったこ

とはありませんか。

**スモン：** 食事をするんですね。最近はお寮の食堂で作って食べますが、外で食べる所を探すのは大変です。それはお店が無いというよりは、お金がかかるということです。東京はすごく便利ですが、生活にはすごくお金がかかるイメージです。

**ナジル：** 日本のスーパーマーケットではバナナが4本120円くらいですが、バングラデシュでは20円くらいです。お米も日本では1キロ300円くらいですが、バングラデシュでは普通の米は50円、良い米でも70円くらいです。

**編集部：** 日本はバングラデシュの5-6倍という感じですが、バングラデシュではどのくらいの給料をもらえるのでしょうか。

**スモン：** 大卒の初任給が3万タカ(約4万円)だと良い方だと思います。もし郊外や田舎に住むのならこれで十分ですね。

**ナジル：** 家族がいる場合、ダッカでは5万タカ(約6万5千円)~6万タカ(7万8千円)は必要になります。

**編集部：** 給与は日本の1/5程度でしょうか。日本に留学中のバングラデシュ人留学生は経済的には大丈夫ですか。

**スモン：** やはりアルバイトの時間数が限られていますから、学費と家賃とスマホなどの通信費で、収入はほとんど無くなってしまふ、貯金があまりできないとみんな言っています。

**編集部：** みなさんどんなアルバイトを、来日してどのくらいから始めているのでしょうか。

**スモン：** みんな来日して1-2か月でア

ルバイトを見つけていますね。先輩が紹介するというパターンが多いです。日本語のレベルはそれほど高くなくても仕事は見つかります。

**ナジル：** 仕事はレストランやコンビニエンスストアが多いですね。来日当初はみんな厨房での皿洗いとか、日本語をあまり使わない仕事をしています。先にそこで働いている先輩の紹介であれば、多少日本語ができなくても雇用してくれるようです。

**編集部：** みなさんどんな目標を持っているのでしょうか。

**ナジル：** 日本語学校の後には専門学校に行き、将来は日本企業に就職するのがみんなの夢です。時々それが難しくなり帰国する人もいますが、ほとんどの人が目標通りの道を歩んでいます。

**編集部：** 最初の日本語学校はどのように決めているのでしょうか。

**スモン：** 一番多いのは親類や友達、先輩の紹介というパターンですね。それからバングラデシュで通っている日本語学校の日本での提携校に行くというのも多いです。ほかに、留学エージェントを利用する人もいます。

**ナジル：** 私の日本語学校では仙台の学校と提携していてそこに学生を送っています。その他にも私が教えた学生は、名古屋と広島にいますが、やはり親類や友人が先にそこに住んでいるからというのが理由です。

**編集部：** ダッカも東京同様に人口密度が高いので、似ているところも多そうですね。

**スモン：** ダッカも人が多いので、日本の満員の通勤電車などは大丈夫です。時間に

厳しいところもバングラデシュ人は苦にならないと思います。

**ナジル：** 違うのは電車の中で日本人は話さないということですね。

**スモン：** ダッカでは知らない人同士でも話します。「どこから来ましたか?」「家族は元気ですか?」という感じです(笑)。そこはダッカの良いところです。



ABK カレッジの山田事務長と

## 東京の思い出とこれからの目標

**編集部：** 短期留学ももうすぐ終わりですが、帰国後の予定や目標があれば教えてください。

**ナジル：** 今回帰国して、もし金銭的な問題を解決できるのなら、来年 ABK に入り、その後は奨学金を探して日本の大学で修士、博士と進学したいと思っています。

**スモン：** 私はしばらく今の仕事を続けます。そしてチャンスがあったら留学生として日本に来て大学の博士課程で日本研究をしたいと思っています。

実は私たちは2人ともお金持ちの家庭出身ではありません。ナジルさんの家は農家ですし、私の家も今は都合で父が働いておらず、妹の大学の学費や生活費は私が面倒を見ています。ですから、日本留学は奨学金をもらえることが条件になります。

**編集部：** 最後に東京や日本の印象を教えてください。

**スモン：** 緑が多くて、景色がきれいなところが多いので、日本を旅するのは大好きです。鎌倉や江ノ島など、東京の近くもい

ろいろな所に行きましたが、特に箱根の景色は良かったです。湖で乗った船から見える富士山は最高でした。そうした旅行の時も日本の交通は便利で正確なので、いつも予定通りに目的地に行くことが出来ますね。それから、日本人はあまり話ませんが、優しいです。私が尋ねた場所を相手の方が知らないことがありますが、一生懸命調べてくれますから。

**ナジル：** 私はお台場が最高に気に入っています。自然と近代的な街の調和が素晴らしいです。海の近くで見る夜景もきれいで感動しました。そこではモノレールにも乗りましたが、運転士がいなかったのとでも驚きました(笑)。その他にも皇居や秋葉原、浅草やディズニールランドなど、この一月でいろいろなところを回りました。初めての日本滞在は最高にいい気持ちで過ごしました。

**編集部：** お二人とも夢の実現のために、ぜひまた日本に来てください。ありがとうございました。

先輩に  
聞く!

# 日本留学で得た豊かな人生

## ～縁ある人々を訪ねて～

### 陳 柏池さん (Mr. TAN BOON LIANG) ～マレーシア

マレーシア出身の元日本留学生・陳柏池 (TAN BOON LIANG=タン・ブン・リャン) さんは、1980年に来日、日本語学校を経て山形大学に入学し電気工学を学んだ。大学卒業後はAOTSの留学生研修制度を利用し日本無線(株)で研修を受け、その後ソニー(株)に入社、日本で8年間の会社員生活を送った。そして帰国したタンさんはソニー・マレーシアに再就職。20年間勤務をし、昨年定年退職を迎えた。今年、請われ日系企業に再就職し、出張で日本を訪れる機会を得たタンさんは、滞在を延長し、学生時代お世話になった人々を訪ねるため山形を訪れた。日本語学校(国際学友会)時代、ABK日本語コース開設のきっかけとなった、日本語・基礎科目のボランティア教室へ毎週通っていたタンさんに、今回の山形訪問のことや東京の元居住先訪問のことなど、日本留学時代の思い出についてお話しいただいた。



どうしてですか。

私はマレーシアで専門学校を卒業後、家業(漁業)を手伝っていたのですが、それがあまり自分に向いていなかったのか、辛かったですね。それで、留学をしようと思い、台湾とかカナダとか、行き先を考えましたが、高校の同級生だったタン・カン・ホク(大学時代 ABK 在館)さんが日本に留学してい

#### 日本を選んだ理由と ABK の思い出

—— 当時、留学先に日本を選ばれたのは

て、日本も悪くないよと誘ってくれたんです。当時、日本の技術は世界でもかなり進んでいて、マレーシアの街中にも日本製品が溢れていましたから、それじゃあ日本に行って見ようと思ったんです。

—— 日本語学校はどちらに通っていたのでしょうか。

国際学友会（現 東京日本語教育センター）で1年半学びまし

た。アジア文化会館（ABK）に出入りしていたのはその頃ですね。当時、ABKにはまだ日本語学校はなかったのですが、スタッフや学生、外部のボランティアの方がABKで、毎週土曜日、マレーシアの学生に日本語や基礎科目の勉強を教えてくれました。土曜日は国際学友会の授業が12時までだったので、それが終わったらABKに飛んで来て勉強に参加していました。

—— 当時のマレーシア留学生協会会長のウン・キム・チャイさんを中心としたマレーシアの先輩学生たちが、マレーシアの中国系学生を良い学校に入れてあげたいということで、ABKにお願いして、そのボランティア教室が始まったんですね。その活動が、今のABK日本語コースの基になっていると聞いています。

あの時はABKの教室で勉強したあと、食堂でみんなで食事を食べて帰っていましたが、それも楽しかったですね。ABKのお正月の餅つき等のイベントに参加するなど、実は国際学友会よりも私はABKの方に親しみがあったんです（笑）。



日本語会話の相手をしてくれた十条の豆腐屋の大塚さん

—— 当時の思い出で、何か印象的な出来事がありましたか。

当時は十条（東京・板橋区）に住んで、赤坂の中華料理で皿洗いのアルバイトをして生活費を稼いでいました。思い出深い出来事と言えば、来日して2、3か月経った頃、盲腸になったんです。夜中に急にお腹が痛くなり嘔吐して…。幸い同じアパートにマレーシアの友達がいたので、彼が病院に連れて行ってくれ助かりました。その病院にはシンガポール人のドクターがいて、すぐ手術をしてくれ、数日入院しただけで済みました。あの時は本当にどうなるのかと思いましたね。今回、十条に行き、思い出のお店の人に会ってきました。30年振りに日本語会話の練習を付合ってくれた大塚（豆腐屋）さん。店は止めてましたが、80歳になっても元気で町内会の活動を頑張っていました。

## 山形での出会いの数々

—— 日本語学校卒業後は山形大学の工学部に進学されたそうですね。

お陰様で、岐阜大学と山形大学、そして創価大学に合格しました。希望は国立大学だったので、岐阜と山形とどちらにするか迷い、ABKの山形出身の職員、工藤さんにも相談に乗っていただきました。最終的に山形を選んだのは、入学試験の前夜泊まった現地の旅館の人がすごく親切で、雪の中を車で学校まで送って行ってくれたからなんです。

—— 人の魅力がタンさんを山形に呼んだんですね。在学中もいろいろな出会いがあったと思いますが。

当時、山形大学の教養課程には外国人が3人だけで、とても珍しかったため、山形新聞でも紹介されました。それで、たまたま寮のそばに住んでいた元留学生のマレーシア人の医師丘文楽先生と知り合いになったんです。丘先生は私より20年程前に来日して、東北大学医学部で学んだ後、日本人と結婚され山形で医院を開業していたんです。それで付き合いが始まって、私の保証人にもなってくれました。先生のお宅には温泉がひいてあったので、たまにお宅に呼ばれて温泉に入れても

らったり、駅前にお酒を飲みに来て行ってもらったり、とてもお世話になりました。

—— そんな奇遇もあるんですね。先生も山形でマレーシアからの留学生に出会って嬉しかったと思います。今回は、その先生にも会われたんですか。

実は先生は、私が卒業して4年ほど経ったころ亡くられました。ある日先生から「癌にかかっているので長くはない」という電話があり、とてもショックを受けました。先生はその後半年ほどで亡くられたのですが、奥さんはご存命で、今、足が悪くて歩けないのですが、25年振りにご自宅を訪ねお会いしてきました。それから東京で二人の娘さんにも会いました。本当に良かったです。

先生の奥様はじめ、今回の来日では昔お世話になった方々皆さんにお会いしたいという気持ちが高く、山形まで新幹線とどんぼ返りで行って来ました。そして大学に行く途中よく話しをした文房具屋の小嶋さん、お茶を習っていた玉ノ井商店の先生など、懐かしい方々を訪ねました。



保証人を務めてくれたマレーシア人医師 丘文楽先生の奥様（左）、娘さんたちと。  
右から3人目はタンさんの息子さん

—— 茶道を習っていたんですか？

工藤さんに紹介していただいた先生なのですが、私も日本文化への興味が強かったので、しばらく通いました。正直お茶の味の違いはよくわからなかったのですが（笑）、作法は少し身に付いたのではないかと考えています。その玉ノ井商店はまだあったのですが、もうお孫さんが継いでいました。先生はお元気のことでしたが、今回はお会いできませんでした。

文房具屋の小嶋さんのほうはお店が無くなっていたのですが、玉ノ井商店でご自宅を教えてもらい訪ねることが出来ました。ドアをノックしたら、「どなたですか？」と言う声が聞こえたので、「マレーシアのタンです」と言ったらすぐ思いだしてくれて、「タンさん、タンさん…」と家の中から繰り返して呼んでくれました。昔私が住所を書いたノートもまだそのまま残っていてくれて感動しました。さすがに文房具屋ですね（笑）。

昔からすごく陽気で世話好きな方で、今は70歳近くですが昔と変わっていませんでした。今回一緒に大学まで行ってくれたんです。

—— 大学の教員の方はまだ在職されていましたか。

私がお会いしたかった方は3人なのですが、お一人は亡くなっており、お一人は定年で大学にはいらっやいませんでした。残りのお一人は、歴史の先生ですが、残念ながらご不在で、今回はFacebookで知り合った職



文房具屋の小嶋さん（中央）と大学職員の山口さん

員の山口さんと話しをし、そこに文房具屋の小嶋さんも加わり、楽しい時間を過ごしてきました。

—— 今回はタンさんの息子さんも一緒に山形に行かれたそうですね。

彼は今回、私とは別に来日し、自分で日本を回っているのですが、彼に山形でお世話になった人たちに会ってもらいたかったので、米沢で合流して一緒に回りました。

## 学生寮と奨学金

—— 留学生だったことで良かったこと、逆に厳しかったことなどはありますか。

良かったのは、当時は留学生が少なかったため、教授が食事に呼んでくれたり、研究室でみんなが餃子を焼いてくれたり、周りが親切に接してくれたことですね。大学のスキー教室も留学生は少ないからと無料で参加させてくれました。また、私はバトミントン・クラブに入っていたので、仲間と練習をしたり飲みに行ったり、蔵王で合宿をしたり…、とても濃い人間関係を築けたと思います。

一方で悪かったこと…ではなく、大変だったことは勉強に関してです（笑）。論文とか、レポートとか、日本語で調べたり書いたりするのが苦手で、いつも苦労していました。

—— 大学には今と違って外国人向けの留学生寮などはなかったと思いますが。

当時は学生寮に入っていましたが、自治寮なので私にとってはいろいろと変なことがありましたね（笑）。例えば「ストーム」といって、夜中に先輩が後輩の部屋のドアを叩いて回って酒を飲ませるといふ恒例行事があったり、大学の近辺を仮装行列したり。寮は毎晩とにかくうるさくて、いつも廊下には酒の瓶がころがっていました。ほんとにみんなよく酒を飲んでましたね。7年も寮に住んでいて、学校には行かず寮の活動ばかりやっている先輩もいました（笑）。

—— 生活費や学費の面はどうされてましたか。

アルバイトは日立の工場ではICの選別をやりました。夜中から朝までの仕事で時給が良かったんです。もう一つはブドウの種を無くすためのジベレリン処理の仕事で、あの時は作業をしながら、どうして種が無くなるのか本当に不思議で仕方ありませんでした（笑）。

3年生からはロータリー米山記念奨学会から奨学金をいただきました。ロータリーの奨学生には一人ずつカウンセラーが付くのですが、私のカウンセラーはお医者さんでした。奨学生は月一回、必ずカウンセラーのお宅に行かなければいけないのですが、それ以外にも食事と呼んでくださるなど、とても親切にいただきました。



思い出の学生寮の前で

実は、大学の工学部課程がある米沢には私を含めて4人ほど留学生がいて、私以外はロータリーの奨学生ではないのですが、カウンセラーの先生は全員を大晦日に家に呼んでくださり、着物を着せてくれたり、麻雀をやったり、お節を食べさせてくれたりと、日本のお正月を体験させてくれたんですね。

—— 奨学金を受けてからは生活も勉強も安定したわけですね。

当時住んでいた下宿の家賃は1万円でしたし、大学では半額の学費免除もあったので、余った奨学金を貯金して、日本全国を旅行して回りました。日本語学校時代のマレーシアの同期生たちが日本全国の大学に散らばってましたから、みんなの所を訪ね歩くのはとても楽しかったです。日本は文化も豊かで面

白かったですね。東京よりも地方の方が、そのことがよくわかります。また、山形ではほとんど日本語だけで過ごしましたから、日本語も上達しやすい環境だったと思います。

## 卒業後は研修生を経てソニーへ

—— 大学を卒業した後はすぐに就職されたのですか。

1986年の3月に卒業したのですが、まず海外技術者研修センター（AOTS）の留学生研修制度を利用して、日本の会社の研修生となりました。これは会社が研修生として外国人を採用した場合、AOTSが費用の半分以上を補助するという制度で、私はこれを利用して日本無線（株）で1年半研修を受けたんです。

うちの家業は漁業で船を持っていたのですが、何の電子機器も積んでいなくて、すごく危険でしたので、漁群探知器などのことを勉強して、帰国したら代理店でもやろうと考えていました。ところが、1988年頃、ペナンの私の実家の近くにソニーの工場ができるという話を、当時ソニー本社で働いていた先輩のウン キム チャイさんから聞いて、それじゃソニーに入って将来は国に帰って働こうという気持ちになったんです。

—— どのような形で採用されたのですか。

最初の2年は契約社員だったのですが、正社員にならないかというお話をいただき3年目からは正社員になりました。そして、結局トータル8年間日本で働きました。その間出張でマレーシアには行ってましたし、将来的には赴任という可能性もありましたが、帰国したいという気持ちを抑えられず、いったん

日本のソニーを辞めて、改めてマレーシアのソニーに入社するという形をとったんです。—— その後、定年までいらしたわけですが、途中転職などは考えなかったのでしょうか。

わかっていたことですが、ローカル採用ですから、待遇は日本にいた時より下ってしまいました。そんなこともあり、待遇が良く、実家の近くに工場があった液晶ディスプレイ（LCD）の会社に履歴書を送ってみたことがあります。その結果、面接に呼ばれたのですが、結局行かずに止めました。

日本では同期生とよくコミュニケーションをとっていたので、マレーシアで問題があれば、日本側からすぐ情報をもらえますし、日本で問題がある時はこちらが情報をあげられる。ソニーではそういう良好な人間関係があったので、自分はソニーにいた方が働きやすいんだという気持ちが最後には勝ったんですね。

—— 当時、ペナンにはほかにも大手の外資系企業が来ていたのですか。

ソニーが進出する前から、インテルなどの外資系企業はけっこうありました。もちろんSONYはネームバリューがありましたから、みんな最初はソニーに入るのですが、何年か経つと給与に差が出てくるので、3-4年で他の外資に移って行くんです。新しく出来た工場では新卒をとってもすぐ使えませんから、経験者が引き抜かれて行くわけです。そうした人材の確保が工場の成長の早さに繋がるわけです。

—— ソニーのペナン工場には何人くらい従業員がいますか。



ソニーの元同僚たちが集まって歓迎会！

一時期は9千500人いたことがあります。その時は生産量が凄かったですね。今は3千人くらいでしょうか。しかも3千人のほとんどが外国人で、ミャンマーやネパール、ベトナムなどです。オペレーター（製造に携わる作業員）は給与も高くなく、現地の労働者がなかなか雇えないため、外国人が多いのが現状です。

—— タンさんはどのような部署にいたのですか。

私が日本で所属していたのは生産設計部という、生産と設計の間に位置する部署で、新製品を量産する時、生産工場の立ち上げをサポートするという仕事です。

マレーシアに帰国してからは2年ほど製造技術部門にいて、その後設計に移り、ウォークマン及びヘッドホンの設計などに携わりました。そして最後の5年間はコンプライアンス関係の部署で、それぞれの国や地域の法規に沿った製品を出すための仕事を行っていました。

—— マレーシアのソニーには元日本留学

生が大勢いますか。

私が就職した当時は元日本留学生をかなり採用していましたが、今は少ないですね。ソニー・マレーシアはもう出来て30年近く経ちますが、まだ日本人駐在員が多い。もうある程度は現地スタッフに任せて、日本人は何人かがいるだけでいいと思うのですが、今でも30

数人います。それでも全ての決裁権は常に日本にあります。30年経っても現地では何の決定もできないというのは、ローカルスタッフはみな不満に感じているところではあります。

—— では、定年まで勤め上げる人は少ないのではないのでしょうか。

今まで、ソニー・マレーシアで定年までいたのは4-5人いたでしょうか。私の場合は日本に長くいましたから、先ほどの人間関係はもちろん、日本の企業文化、日本のやり方に慣れていたので、それが出来たのだと思います。逆に、マレーシアに帰った当初はマレーシアのやり方に慣れずに苦労しましたから（笑）。マレーシアでは“太極拳”と言っているのですが、何か問題があると、それを各部署がお互いに押したり押し返したりを繰り返して誰も自分の責任にはしないですね。日本では何か問題が起ると、担当部署以外の経理や生産管理の人までもが一緒になって処理に当たるのですが、マレーシアではこれはあなたの責任だという感じで、みんなが責任を押し

し付け合う。そういう文化にはなかなか馴染めませんでした。

—— 日本人が大勢いても、そういった面はあまり改善されないんですね。

今はけっこう改善してきていますが、少し遅いかなと思います。赴任者は3-5年で帰国しますから、みなさん自分の目標を達成することに精一杯で、なかなか全体を変えて行こうという思いは持ちにくいのかもかもしれません。トップの日本人もそれぞれ考え方が違い、ローカルスタッフに聞くと、この人に合わせてやっても、また5年後に変わってしまうので、継続性を持ってないと言いますね。

## マレーシア人にとって日本留学は？

—— 今回はソニー退職後に入られた別の日系企業のお仕事で来られたとのことですが。

今の会社は長野県でIT関連精密電子機器部品の開発・製造を行っている会社です。ソニー時代の上司の紹介で、私とその会社のマレーシアの工場見学をアレンジしていたんです。何度目かに、入社して欲しいと社長に誘われました。実は最初は断ったのですが、働き方は自由でいいと言われて、それじゃあやってみようかなと思ったんです。

ソニーにいた時と仕事はまったく違うのですが、ソニーが製造する商品の中に使う部品を扱っていますから、次回の出張時には日本人の営業担当を、まだソニーに現役でいる同期に紹介して関係作りをしたいと思っています。

—— マレーシア人の日本留学について、

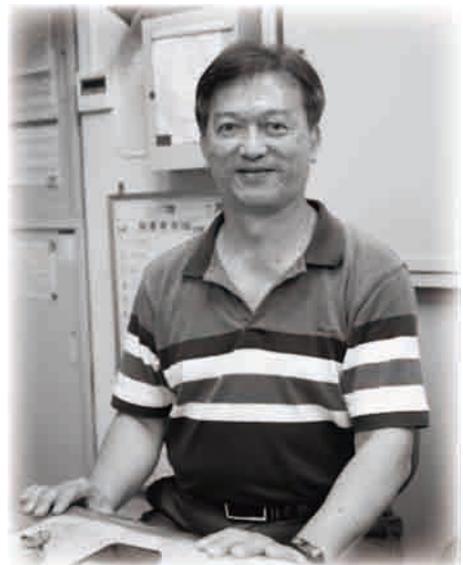
どう思われますか。

私は普段マレーシア人に日本留学を勧めているんです。仕事の面だけ見ても、中華系マレーシア人は中国語も英語もできますから、さらに日本語ができるようになれば、就職時はそれだけで有利になります。それに日本は安全ですし、日本人は留学生に対して親切に接してくれます。これは若い留学生が海外で生活する上では重要なことですね。

—— 今振り返ってみて、日本に留学したことをどう思いますか。

私は日本に留学して、本当に良かったと思っています。日本では学問を学んだだけでなく、いろいろな人と出会い、親交を深めることができました。そして、それらは私のこれまでの人生をとっても豊かなものにしてくれました。私は日本を第二の故郷だと思っています。

—— 今後もマレーシアと日本の架け橋として、ますますのご活躍を期待しています。



バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

# 泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

②5 泰日工業大学 10周年を迎える

水谷光一

## < TNI10周年記念式典 & 国際フォーラム >

2006年から始動し、2007年6月から一期生の授業が開始された泰日工業大学は、この8月2日、10周年を記念して、バンコク都内のホテルで、International Forum & Reception Dinner Party を行った。

6月から（正確には5月26日から）授業を開始しているが、どうして8月2日が10周年記念日かと言うと、マハ・チャックリ・シリントーン王女殿下をお迎えし、正式な開学式典を開催したのが2007年8月2日であったからである。

フォーラムでは石川正樹 経済産業省貿易経済協力局長、ピチュート タイ政府デジタル経済・社会省大臣、内山田竹志 JTECS 会長、チェーン タイ工業連盟会長が英語で講演を行い、レセプションパーティーでは佐渡島志郎大使が祝辞を述べられた。

## < 泰日工業大学の創設 >

泰日工業大学のルーツは70年代にさかのぼる。いや、ABKの起源を考えると戦前にさかのぼると言って良いのかもしれない。

1972年社団法人日・タイ経済協力協会 (JTECS、現一般社団法人) が日本に発足し、その翌年の1973年1月、タイに泰日



2007年8月の開学式の様子

経済技術振興協会 (Technology Promotion Association Thailand-Japan: TPA、タイ語略称ソーソーター) が設立され、JTECSと一体となったタイでの日本的技術の研修事業を行ってきた。ソーソーターの設立にあたっては、日本の専門学校や高等専門学校のような技術学校の提案もなされていたのだが、当時、タイにはミッション系の学校などはあったものの、一般の私立大学はまだ存在しておらず、民間人が高等教育機関を創るのは難しかったため、公益団体の形で技術研修センターとして出発せざるを得なかったと聞いている。

私が1990年代半ばにソーソーターの職員になった時には「タイ・日工科大学構想」が検討されていた。そのための募金を開始しようと準備が進められており、私自身も当時の



International Forumの様子

ワープロで設立寄付金のお願い書を作成した覚えがある。しかし折からのアジア経済危機（トムヤムグン・クライシス）でこの計画も資金が集まる見込みが無くなり、先延ばしになった。

2000年代になりスポン・チャユットサハキット氏を会長に迎えたソーソーターは、70年代からのソーソーター設立者たちの志をいつまでも中断させておくわけにはいかないと、再びこの計画の実現に向けて動き出す。聞くところによれば、当時のTPA理事の半数は反対、或は積極的ではなかった状況にもかかわらず、スポン会長と当時のバンディット事務総長とが理事会を説得し、全会一致で泰日工業大学設立を決めた（2005年5月17日）という。そして2005年には用地を取得し、2006年には大学設置認可がタイ教育省から下りた。

TNI設立は元日本留学生にとって長年の夢の実現であると同時に、タイ国の人材育成、日本とタイの友好の象徴にもなれ

ばとの思いが込められている。

2007年 TNI 設立当初からタイ・日友好としてのシンボルとして期待を寄せる多くのタイ-日の企業や団体・個人が賛意を示してくださり、設立当初には100社以上の企業から900万バーツ（B、約2700万円）以上の奨学金をいただき、その後も2010年までの4年間に総額4千万B（約1200万円）の奨学金をご寄付いただいている。またワークショップ（工学部実習室）の設備の相当数を日系企業からご寄付いただいた。

### <卒業生の活躍例1>

2010年には大学院生の一部と社会人学生が初の学位授与式を迎え、2011年には2007年に入学した学部第一期生が卒業した。

ここで、2名の第一期卒業生の話を紹介したい。

ウッティボン パニット セッタコーン君はスパンブリーの農家に生まれ、TNI以外にも国立大学に合格していたが周囲の反



Dinner Receptionの様子



入学試験を受けに来た当時の  
ウツティボン君(2007年)



経営者となった現在のウツティボン君(中央)と  
社員の TNI 卒業生たち

く貢献した。その後も TNI で学習した内容と、自ら開拓した日本とのネットワークを活かしつつ事業を拡大し、現在では 100 億パーツ (約 300 億円) 以上の売り上げを誇る事業にまで成長させた。現在彼は経営者として 7 人の TNI 卒業生を採用し、数年後にはタイの証券取引所上場を目指している。さらに将来は人材育成に乗り出したい、化粧品ビジネスの大学を立ち上げたいと語ってくれた。

### ＜卒業生の活躍例 2＞

もう一人、同じく 2007 年に IM コースに入学し 2011 年に卒業したウィーラユット君の例を紹介したい。TNI のことは田舎 (ナーン県) に居たときに TV を見て知った。すぐ資料を取り寄せ、受験のために準備したが、

対を押し切って、奨学金の授与が決まった TNI の経営学部工業経営学 (Industrial Management=IM) コースに入学。4 年生の時には静岡県の企業でインターンシップを経験し、卒業後はアメリカの自動車部品会社に高給で優遇され就職した。しかし派遣された中国の大気汚染でアレルギー症状を起したことをきっかけに、自分が本当にしたい仕事はこれではないと退職。TNI の学生時代に家庭教師をしていた子供の家族が行っていた化粧品事業に関心を持ち、経営が傾きかけていたこの家業をボランティアで手伝うことにした。そして、にきび予防クリームの開発など、タイのハーブと、日本から取り寄せた原料を上手く用いながら会社の建て直しに大き

両親は山地民族で父は農夫、母はタイ語すら分からない状態だったので、両親には相談せずに自分の判断だけで TNI を受験した。高校の先生にも相談しなかった。受験のためにバンコクに行くには資金が必要だったが、お金の重要性を子供のときから身をもって感じていたウィーラユット君は子供の時から多少働いていたため数千パーツの貯金があり、これを原資にバンコクに来て受験することができた。

同時にチェンマイ大学経済学部も受験し合格していたが、TNI の方は奨学金試験にも合格したので、迷わず TNI に進学した。田舎の高校では先生にも友達にも反対され、えらく失望された。誰にも祝福されない TNI

進学だった。

TNIでは勉強とアルバイトだけの生活だった。スーパーの店員やピラ配り、そして家庭教師もした。春休みにはローチャナ工業団地の MIKUNI (Mikuni Thailand Co., Ltd) で自動車部品製造のアルバイトをして、生活費を稼いだ。学費は TNI からの奨学金でまかなった。

4年生になって、タイ・アサヒデンキでインターンシップをしたが、自分の専攻が IM にも関わらず、製造業は自分には向いていないと思った。そして彼はお金に関する仕事をしたいと思い、金融関係の就職先を探し、SET (タイ証券取引所) に就職する。初任給は 1 万 1000B だった。株取引の経験はなかったが興味は持っていた。

ウィーラユット君は SET での経験を元に、2 年前から Asia Wealth Securities Company Limited で投資顧問 (Investment Consultant) をしている。給与は能力給のみで高級ではないが、顧客は自分のことを信用してくれて大きな運用益を得ている。彼はそれらの顧客に社会貢献を勧めていて、今回 TNI への奨学金を提供してくれることになった。去る 2017 年 5 月 24 日には顧客から 50 万 B (約 150 万円) の奨学金を託されて TNI に寄付するためやって来た。

以下はウィーラユット君の言葉だ。

「TNI では何事にもまじめに仕事に取り組むことを学んだ。出身高校の多くの同級生はおそらく自分とは違う人生を歩んでいると思



ウィーラユット君 (中央) と著者 (左)



ウィーラユット君の顧客が TNI に奨学金 50 万 B を寄付

うが、可能性を模索したいのならまず、真面目に勉強すること。本をたくさん読むこと。さらに、ありとあらゆる機会を捉えて知識を吸収することを勧めたい。まじめに努力しないかぎり成功はありえない。

TNI では、“たとえものを 100 個売っても、利益をもたらしてくれるのはその中の 20 だけ。その他の 80 は直接利益にはならないが、20 の利益を得るためには商品として売らなければならない。” そのように教わった。今の仕事にもそれら TNI で学んだ知識が生きている。

僕は 100 人のお客さんを全て満足させられるわけではない。現在の仕事は顧客に儲けさせる事もあれば、損をさせることもある

学部・大学院卒業生数

学部	課程・英文略称・取得学士・修士	教育年度 (2009-2016)								合計
		09	10	11	12	13	14	15	16	
工学部	1.自動車工学(AE、工学士)		55	108	78	78	98	68	46	531
	2.生産工学(PE、工学士)			26	43	30	38	41	24	202
	3.コンピュータ工学(CE、工学士)			59	75	68	48	47	41	336
	4.産業工学(インダストリアル・エンジニアリング、IE、工学士)						1	11	26	38
	5.電気工学(EE、工学士)								13	13
情報技術学部	6.情報技術学(IT、科学士)		74	106	152	58	64	54	53	561
	7.マルチメディア技術学(MT、科学士)					59	90	78	74	301
	8.ビジネス情報技術学(BI、科学士)					38	36	18	30	122
経営学部	9.工業経営学(IM、経営学士)		74	89	116	72	88	75	58	572
	10.日本語・経営学(BJ、経営学士)			104	170	155	174	153	99	855
	11.工業経営学(社会人用)(IM(C)、経営学士)	31	21	6	1					59
	12.ビジネス・工業経営学(編入者等用)(BM、経営学士)				20	15	13	15	15	78
	13.国際経営学(IB、経営学士)							73	83	156
	14.会計学								28	28
	学士取得者合計	31	224	498	655	573	648	633	590	3,852
大学院	1.工学技術学(MET、工学修士)				5	8	22	15	-	50
	2.情報技術学(MIT、科学修士)					1	4	12	5	22
	3.工業経営学(MIM、経営学修士)	34	30	43	37	39	43	25	17	268
	4.企業家経営戦略学(SME、経営学修士)	6	21	15	23	29	27	16	5	142
	5.日本語・経営学(MBJ、経営学修士)							5	3	8
大学院修士取得者合計	40	51	58	65	77	96	73	30	490	
総計	71	275	556	720	650	744	706	620	4,342	

舎の生活の中で、家族にお金が必要な場合は僕がサポートしている。

TNIでは先生にとってもよくしてもらった。TNIの一番いいところは“先生”だと思う。後輩や田舎の友人にはTNIの良い先生に接した上で、あきらめず、まじめに、そして熱心に努力して、将来を開拓してもらいたい。」

仕事だが、顧客には誠実にまじめに接している。その中で自分の言うことを聞いて、TNIに奨学金を寄付する顧客も出てきた。

今、田舎の父母には大きな金額は送金していない。というのは、今までの生活をそのまま継続することが両親の幸せになると思うから。僕は長男で下に4人の妹がいるが、学費は自分が全て面倒を見ている。田

< TNI 学生への期待 >

TNIはようやく10年を迎え、ますますタイの人材育成の拠点として期待されている。TNI学生には・・・日本語の上手な学生もそうでない学生も、技術を生かして活躍したい学生もその他のスキルを生かして活躍したい学生も・・・「日本」との接点を充分活用し、明るい未来を築いて欲しい。

国際学術交流の年度別推移

教育年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	計
日本の機関との協約締結	12	5	8	4	1	7	4	6	3	8	58
ASEAN 大学との協約締結					1	0	0	5	0	1	7
TNI 学生の日本教育機関留学		24	59	140	136	215	206	179	195	230	1,246
日本人学生のTNI短期留学			17	32	68	104	101	137	142	201	802
TNI 学生の ASEAN 短期留学						31	38	0	16	22	107
TNI 教職員の日本大学等への研究・研修		3	2	12	21	17	34	40	33	39	201

教育年度は6月～翌5月。留学は短期、インターンシップ研修を含む。2016年度は確定前値



しょうがくきんじょうほう  
**奨学金情報**

※ 奨学金情報は Japan Study Support のホームページよりご覧いただけます (http://www.jpss.jp/ja/)

ほんじょうこくさいしょうがくざいだん がいこくじんりゅうがくせいしょうがくきん  
**■ 本庄国際奨学財団 外国人留学生奨学金**

●**対象**：①日本国籍を持たない者。②2018年4月以降に大学院に在籍している者。または入学を予定している者。(申請時に在籍されていない方も応募可能。)③専門職大学院は原則的に対象外ですが、研究計画書を提出できる場合は、応募可能。④博士課程在籍者は、1982年3月31日以降に生まれた者、修士課程在籍者は1987年3月31日以降に生まれた者。

⑤大学院修了後、母国において仕事をする意思のある者。⑥「国際親善と交流に理解を持ち、財団で行う行事と同窓生ネットワークに積極的に参加または協力できる者。⑦日本語の日常会話ができる者。面接は日本語で行う。

●**その他条件**：①支給期間中は他の奨学金の支給不可。②奨学金受給中のアルバイト不可。ただしティーチングアシスタント、リサーチアシスタントなど大学や研究に関する仕事ならびに翻訳、国際交流事業など国際交流に関する一時的な仕事は除く。③奨学金受給中はほぼ毎月面談するほか、財団で行う行事等に参加することが求められる。④大学院修了後も同窓会などへ積極的に参加することが求められる。

●**支給期間**：2018年4月以降在籍時より開始し、採用時の課程修了までの標準修業年限

●**給付金額**：次の金額と期間のうち、最終目標とする学位取得までの最短年限にあたる期間を本人が選択。ただし、延長、奨学金支給開始後の期間、金額の変更不可。(1)月額20万円を1年～2年間 (2)月額18万円を3年間 (3)月額15万円を4年～5年間 ※在籍期間が残り1年未満の方は応募できません。そのほかに国際学会に出席するための費用等が、奨学金支給規程に基づき支給されます。

●**募集人数**：15～20名  
●**応募方法**：実施団体に直接申込み。(下記ホームページにて確認)

●**応募締切**：2017年10月31日(消印有効)  
※ 海外の消印も有効

●**実施団体・問合せ先**：  
こうえきざいだんほうじんほんじょうこくさいしょうがくざいだん じむきょく  
公益財団法人本庄国際奨学財団 事務局  
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 1-14-9  
Tel (03)3468-2214 FAX (03)3468-2606  
ホームページ http://www.hisf.or.jp  
E-mail info@hisf.or.jp

ご報告

東京後楽ロータリークラブより浴衣贈呈・富士神社の盆踊りに参加

今年も東京後楽ロータリークラブより浴衣を贈呈頂き、8月3日(木)駒込富士神社(東京都文京区)での盆踊りにABKの学生達が参加しました。幸運にも抽選で浴衣をゲットしたのは台湾・マレーシア・モンゴルの学生達で、華やかな浴衣に着替え、踊りの輪に加わって、日本の夏の盆踊りを楽しみました。



# MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2017年6月

正会員

(1口)

岩尾 明	日田市
北林 保之	中川郡
内山 敦之	中野区
鈴木 八重子	志木市
竹嶋 栄子	松戸市
赤星 裕	船橋市
庄司 龍平	神戸市
千野 克子	墨田区
堀 幸夫	杉並区
細川 哲士	八王子
竹田 肇/和子	中野区

森尾 正照  
 中西 鶴子  
 大田原 康彦/真澄  
 吉原 エツ子  
 広田 誠四郎  
 橋本イスラム ヌルール  
 忍足林基  
 樋川 好美  
 山田 守一  
 村田 忠禧  
 竹林 惟允  
 今泉 雅勝  
 井上 美和子

ご寄附

小木曾 建	世田谷区
平峯 克	川崎市
酒井 杏郎	渋谷区
根岸 幸子	逗子市
竹林 惟允	練馬区

北杜市  
 名古屋市  
 仙台市  
 始良市  
 高崎市  
 坂戸市  
 江東区  
 文京区  
 港区  
 川崎市  
 練馬区  
 墨田区  
 文京区

2017年7月

正会員

(2口)

石川 毅/優子 北区

(1口)

倉内 憲孝	池田市
郭 南燕	京都市
樋口 隆一	文京区
関 正昭	鹿児島市

ご寄附

岡崎 道子 池田市

<新規入会・7月>

正会員(1口)

松浦 吉秀 川越市

皆様の暖かい御支援に  
 感謝申し上げます

## ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

## 協会のあらまし

名 称：公益財団法人アジア学生文化協会  
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION  
(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設 立：1957年（昭和32年）9月18日  
故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

## ◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

## ◇会費（年額）◇

正会員 1口 1万円  
賛助会員 1口 5万円  
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（十税）でお送りいたします。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

おかげさまで、当財団は2014年4月1日に公益財団法人に移行しました。これまでご支援いただきました皆様には大変ご迷惑をおかけしておりましたが、これにより会費並びに寄附金は税制上の優遇措置の対象となります。今後とも、皆様のご支援の下、これまでと同様留学生宿舍の運営、留学生への情報提供、同窓会活動等の活動を通じ、アジアの青年の育成と友好親善のために微力を尽くす所存です。引き続き皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

## 後 記

当財団は穂積五一先生により60年前の1957年9月18日に設立されました。この間、在館生、会員の皆様、関係者の皆様のご支援とご協力、職員の弛まぬ努力で今日を迎えることができました。60年を迎え、気持ちを引き締めよき伝統を継承し、更に前に進めて行ければと思っています。この9月15日（金）に創立60周年を記念し、『創立60周年記念シンポジウム』並びに『式典・懇親会』を文京シビックセンターで開催いたしました。寮友、会員の皆様をはじめ関係団体の方々にお集まりいただき和やかな会を持つことができましたこと、改めて御礼申し上げます。シンポジウムには、ABKが竣工された1960年に入寮したABK第1期生の香港の曹其鏞氏を始め、タイからスポン・チャユアハキット氏、ドイツからヘン・フ・チョン氏（元マラヤ留学生）、シンガポールから呂新一氏（元中国留学生）、また在日の李景珉氏（元韓国留学生）に岡部洋一先生（当財団元理事、現ABK学館理事、前放送大学学長）に加わっていただき、符祝慧さん（元シンガポール留学生）の進行で行われました。限られた時間でしたが、元留学生は全員ABKと新星学寮の寮生で、穂積五一先生の思想を引き継がれ社会的に立派な仕事をされている方々、日本留学を契機に様々な経験、体験を積まれてこられた方々から発せられた貴重な話や提言など何うことができました。シンポジウムの記録は次号に掲載を予定しています。（F）

## アジアの友 2017年8-9月号

2017年9月20日発行（通刊第528号）

年間購読（送料共）3,000円+税 1部 500円+税

発行人 小木曾 友  
編集 アジアの友編集部  
発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会  
東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)  
電話番号：03-3946-4121 ファクシミリ：03-3946-7599  
振替口座：00150-0-56754 E-mail: tomo@abk.or.jp  
ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION  
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN  
☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599  
Email: tomo@abk.or.jp  
Home Page: http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話または巻末の振替用紙にてお願いいたします。

# The 4th ASIA FUTURE CONFERENCE

제4회 아시아미래회의 第4回 アジア未来会議

FRI 24 - TUE 28 AUGUST, 2018

SEOUL, KOREA

평화, 번영, 그리고

역동적 미래

PEACE, PROSPERITY, AND DYNAMIC FUTURE

平和、繁榮、そしてダイナミックな未来



## Call for Papers, Posters, and Exhibitions

The Asia Future Conference aims to provide a platform for those who have studied in Japan and those who are interested in Japan to meet and discuss about the future of Asia. We welcome Paper/Poster/Exhibition proposals related to the overall theme, in order to encourage interdisciplinary discussion.

アジア未来会議は、日本で学んだ人や日本に関心のある人が集い、アジアの未来について語る〈場〉を提供します。学際的に議論するために、全体テーマに関連する論文・ポスター・展示作品を募集します。

[www.aisf.or.jp/AFC/2018/](http://www.aisf.or.jp/AFC/2018/)

Host Atsumi International Foundation Sekiguchi Global Research Association

Co-host Korean Social Science Research Council/ Center for Future Human Resource Studies

主催 遼美国際交流財団関口グローバル研究会

共催 韓国社会科学協議会 / 未来人力研究院



AFC Organizing Committee  
アジア未来会議実行委員会  
Tel : +81 3 3943 7612 Fax : +81 3 3943 1512  
Email : [afc@aisf.or.jp](mailto:afc@aisf.or.jp)

